

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校

1. 全ての生徒が進路希望を実現するために学力の向上を図るとともに、将来を見据えた進路選択を促し、キャリア形成を支援する
2. 授業、学校行事・部活動、探究学習等のすべての教育活動を通じて、たくましく、しなやかにグローバル社会を生き抜く力を育む
3. 英語・第二外国語の習得や多文化理解教育を通して、多様性を認め、世界の課題に対して当事者意識を持ち、多文化共生を推進する人材を育てる

2 中期的目標

1. すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援

(1) 新学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践による学力の向上

- ア 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを行う
- イ 学力生活実態調査(国数英)等を活用し、授業と自学自習により、1・2年次において基礎学力の定着をはかる
- ウ 自学自習の習慣を確立する 小テスト・朝学・補習・講習・基礎学力調査・模擬試験、動画学習等様々なアプローチをする

(2) キャリア形成の段階的支援(社会に開かれた教育課程の実践)

- ア 進路指導部を中心に、進路指導戦略を明確にし、その共有のもとに効果的な進路指導を行う
- イ 「総合的な探究の時間」を進路探究とし、社会や世界の課題に目を向け、SDGsと関連づけ地球の一員として当事者意識を持って考え、自分の可能性を探るなかで、将来を見据えた進路選択を促し、自分のキャリアをデザインする力を育む
- ウ 探究的な活動を通じて、視野を広げ、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な21世紀社会を生き抜く力を育む

(3) 社会性の育成と学習環境の整備

- ア TPOに応じた行動ができる生徒を育成する
- イ 様々な教育活動を通じて、自他の人権を尊重する態度を養う
- ウ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔、快適な学習環境を保つ
- エ 施設の改善や教科指導に活かせるよう、限られた予算を効率よく使い、節減に努める

令和4年度までに「学校教育自己診断」の生徒の肯定率「自学自習の習慣」50%台に(H29:50%,H30:49%,R1:47%)、「進路意識の確立」80%台(H29:78%,H30:70%,R1:77%)、「人権を尊重する学び」の肯定率90%台に(H29:78%,H30:83%,R1:89%)とする。また、現役での四年制大学進学75%(H29:69%,H30:69%)をめざし、さらに、探究的な学習を継続的に行い、「探究学習に積極的に取り組んでいる」【新設】80%以上とする。

2. 多文化共生を推進する人材の育成(国際教養科の再編に向けて)

(1) 多文化理解教育の一層の充実

- ア 留学生や姉妹校との交流の推進、多文化社会との交流、フィールドワークやボランティア活動への積極的参加等を通して多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う

(2) 両学科ともに英語四技能を総合的に伸ばす英語教育の充実を図る

- ア 四技能を総合的に伸ばす指導方法を研究するとともに、ネイティブ英語教員を最大限に活かせる英語教育体制を構築する
- イ GTEC4技能でCEFR-JのA2.2以上をめざさせるとともに、TOEIC受検等資格取得に挑戦させる
- ウ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の生徒の肯定率「英語教育・国際理解教育の充実」95%以上(H29:94%,H30:95%,R1:94%)また、GTECの技能で、CEFR-JのA2.2以上30%(R1:25.1%)をめざす。

3. 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成

(1) 自主的な活動の活性化

- ア 学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション力、調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む

(2) 生徒会活動の充実

- ア 学校行事の活性化を通じて、生徒の自尊感情を高めるとともに、自主・自立の力を育む
- イ ボランティア活動や国際交流、地域との交流を通じて社会との関わりの中で成長させる

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の生徒肯定率で、「生徒会活動に積極的に参加」を85%以上に(H29:84%,H30:85%,R1:83%)、「部活動が活発」を90%台維持(H29:90%,H30:90%,R1:91%) 「友好的な人間関係の構築」90%台維持(H29:92%,H30:94%,R1:95%)を目標とする。

4. 学校力の向上

(1) 組織で課題に取り組む体制づくり

- ア 運営委員会を中心に、課題の明確化、情報の共有、組織間の連携を促進し、教職員一人ひとりが学校経営参画意識を持つ
- イ ミドルリーダーの育成、経験年数の少ない教員の校内研修等、教員力の向上に努める
- ウ 働き方改革 一斉退庁日の徹底 部活動活動指針の順守、休日の付添いを複数顧問で分担する等、負担緩和を図る。

(2) 広報活動の充実

- ア 国際教養科への再編への対応

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の教職員の肯定率「組織が有効に機能」70%台に(H29:59%,H30:64%,R31:69%)「各組織の連携」55%以上に(H29:51%,H30:53%,R1:53%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校満足度】</p> <p>・生徒・保護者ともに「本校に入学してよかった」は6年連続90%超、特に3年生は96%と高い水準を維持している。「学校に行くのが楽しい」も生徒・保護者ともに高い満足度が得られている。また、「国際交流や国際理解教育が充実している特色がある」はコロナ禍の影響で実施できなかったことも多くあったが、生徒91%、保護者90%と高い水準を維持し、WEB交流や留学生との交流を積極的に行った成果が認められる。一方、「施設・設備の整備」は生徒77%、保護者60%と、この数年間伸びていない。校舎等の老朽化による印象もあるが、整理整頓に努め、また、充実したオンライン環境の設備等の学習環境の改善を図っているところである。</p> <p>【学習・進路指導等】</p> <p>・生徒の「興味・関心・適性・進路などに応じた科目が選択できる」は、1学期に2か月の臨時休業期間があったが1年生は91%、全体でも89%と高い水準を維持した。一方、教職員は64%と昨年度より8ポイント下がっている。コロナ禍による影響が考えられるが、次年度は選択科目の決定時期に余裕を持たせて十分なガイダンスと指導を行い、教職員の肯定感を高め、さらに適切な進路選択ができるよう進める。</p> <p>・例年と同様に、「態度良く授業に集中」も生徒(83%±0)と教職員(69%+9)の間にギャップが認められた。教職員は生徒が思うほど授業に集中していないと感じている傾向が続いているが、教職員の肯定的回答は昨年度より9ポイント上昇した。今年度は分散登校による少人数で授業が始まり、「分散登校が幸いして授業を受ける姿勢が良く、いいスタートが切れた」と多くの教員から聞いていた。その効果が持続したと考えられる。</p> <p>・「家庭学習の習慣がついている」の肯定的回答は、生徒56%(+14)、保護者52%(+7)と大きく上昇し、過去5年間で初めて50%を超えた。コロナ禍で臨時休業が続き、4月当初から在宅時間が多かったため、教育産業の配信動画や本校教員による授業の配信動画を視聴し、自宅での学習習慣が定着した生徒が増えたと考えられる。また、全生徒を対象に1学期に2回学習課題を郵送したが、その学習状況も良好であった。コロナ禍による環境の変化と、教員や保護者の激励の成果として、真面目に学習に取り組む生徒が増えたものとする。</p> <p>・新設の「ICT機器が授業等で活用されている」は、89%の肯定的回答を得た。特に1年生は96%と予想を上回る高い値であった。多くの授業でICT機器を積極的に活用していることを見学していても同様に感じる。</p> <p>・新設の「自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくある」は、平均して75%であったが、学年偏差が大きく年次が上がるごとに減少している(1年80%、2年79%、3年66%)。3年次では大学進学を保障するための問題演習の時間が多いことが伺える。一方、「探究的な学習を積極的に取り組む」は1年66%、2年63%、3年74%と、上記と異なる分布が認められる。1、2年は、機会はあるが学習に対する自己評価が低く、より「主体的、対話的で深い学び」を追究し、新学習指導要領に則した教育実践の研究が必要であると言える。</p> <p>・新設の「将来の進路や生き方について考える機会がある」は85%の高い肯定的回答を得た。「授業や補習で自分の進路に必要な学力を得ることができる」86%、「成績・評価は適切」90%、保護者も「学力向上を目指した教育活動に取り組む」82%と高い水準を維持している。一方、「進路指導はきめ細かい」76%、保護者の「進路に関する情報提供ときめ細やかな指導」75%と若干低い値が出ている。進路選択等に係る必要な情報は、学年通信やホームページ等でこまめな情報提供に努めてきた。今後も進路指導部、学年、教科が協働して生徒一人ひとりの進路を保障する指導をより丁寧に進めたい。</p> <p>・「保護者に対する進路説明会や懇談会が積極的」はコロナ禍の中、81%と昨年度より高い値が出ており、さまざまなツールを用いて連絡を密に取ってきた教職員の努力が表れていると言える。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒の「クラスは居場所として快適」88%(±0)、「本校で良好な人間関係を築けている」93%(-2)と、高い水準を維持している。これは「人権を尊重することについて学んでいる」89%(±0)、「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」83%(+1)と、生徒一人ひとりを大切に教育が根付いていることの成果として評価できる。保護者についても、「いじめについて真剣に対応」88%(+5)、「一人ひとりの人権を尊重する姿勢で指導」86%(-1)、新設の「命を大切に心や社会のルールを守る態度を養う」88%といずれも高い評価を受けている。しかし、逆に約10%の生徒や保護者は否定的回答である事実が表出しており、このことを真摯に受け止め、引き続きすべての生徒が安心して安全に通える学校づくりに全教職員が一丸となって取り組む。</p> <p>・「生徒指導の方針に共感・納得」は生徒・保護者ともに「おおむね」の語句を除いたため、数値だけの評価はできないが、保護者79%(-7)、生徒58%(-24)と、昨年度比で生徒の落ち込みが顕著に出ている。これは、「改造した制服(標準服)を着用する生徒への指導を強めた」ことが大きく影響していると考えられる。保護者の「生徒や保護者の気持ちをよく理解し、適切な生徒指導を行っている」は83%(-2)と今年度も高い水準を維持していることから、多くの保護者の支持を得た指導であると捉え、生徒の主体態度を育みつつ、指導方針を変えることなく指導を進めていきたい。</p> <p>・生徒の「担任以外に気軽に相談できる先生やスクールカウンセラーがいる」は、趣旨が異なる「勉強の質問」の語句を削除したため値だけでは評価しにくい、63%(-5)と予想より落ち込みが少なかった。今年度スクールカウンセラーに加え、スクールソーシャルワーカーも配置した成果があったと考えられる。</p> <p>参考 教職員の「教育相談体制が整備され、担任以外と相談することができる」83%</p> <p>【行事・部活動・コミュニケーション】</p> <p>・「生徒会行事に積極的に参加」は生徒83%(±0)、保護者95%(±0)と、コロナ禍で行事を大幅に縮小せざるを得なかったが変動はなく、少ない機会でも積極的に参加したことが伺える。</p> <p>・「部活動が活発」は生徒92%(+1)、保護者88%(±0)と、コロナ禍の影響は現れなかった。</p> <p>・「中学生に必要な情報を十分行っている」は、生徒85%(+1)、保護者82%(+2)、教職員91%(+3)といずれも昨年度を上回った。コロナ禍で本校での学校説明会を2回中止したが、ホームページや公式ブログでの情報公開に努めてきたこと、毎年実施している花園PRESS委員による1年生の母校(中学校)訪問を今年度も実施したことなどが値に反映されていると思われる。</p> <p>・保護者の「担任や教職員の対応は保護者に対して誠実である。」は91%(+2)と昨年度を上回った。コロナ禍に係る問い合わせ等、保護者との連絡は例年より多かったが、学校としての方針や対策、行事予定の変更を迅速に決定してきたこと、日常の教職員が丁寧に対応してきたことが結果につながっていると考えられる。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>・教職員の「分掌・教科の会議は有効に機能」は67%(+8)と大幅に上昇したが、逆に「各種委員会の取組みが有効に機能」は64%(-7)と下がった。生徒は教職員の協力体制が整っているとみているようであるが、各種委</p>	<p>【第1回(6/22)】</p> <p>新型コロナ対策</p> <p>・コロナ禍の今だからこそ、皆で知恵を出し合い、よりよい教育を実践してもらいたい。</p> <p>・生徒に限らず、例年と違う環境の中で頑張っている教職員の健康にも留意してもらいたい。</p> <p>学習指導等について</p> <p>・生徒は自らやる気になった時に大きな力を発揮する。花園に入学したことで満足してしまっている生徒をもう一段階伸ばしてあげてほしい。教員の一言は大きな影響力を持つので、入学してきた生徒一人ひとりに適切な指導助言を行い、次の目標を持たせてもらいたい。</p> <p>進路指導等について</p> <p>・ここ数年、大学入試に関して大きな変化があり大変な時期を迎えている。様々な指標を分析して次へつなげることが大切。</p> <p>国際文化科への改編について</p> <p>・改編の目的の「語学力を身につけるだけでなく、多文化理解教育の一層の充実を図りながら次代を担う人材を育成する」視点は、次代のニーズに合致したもので十分理解できる。新学習指導要領の実施に伴いさらなる発展を期待する。</p> <p>【第2回(11/17)】</p> <p>授業見学を通して</p> <p>・ICT機器を利用している様子がわかった。熱心に意欲的に授業を受けている生徒が多い。新しい試みや教育が進んでいると感じた。</p> <p>・生徒のやる気を起こさせる工夫がなされている。</p> <p>学校運営全般について</p> <p>・教員の頑張りや学校力の向上に寄与していると感じられる。</p> <p>・新しい取組みに教員が頑張れるサポート体制をしっかりと作ってもらいたい。</p> <p>・修学旅行や研修旅行はとても重要な行事。3月下旬に延期したと聞き、ぜひ成功させてほしい。</p> <p>・教員の超過勤務、土曜勤務の多さが気になる。教員の健康にも気を付けてほしい。</p> <p>花園探究プロジェクトについて</p> <p>・コロナ禍の中でも、実施形態を工夫して花園進路探究プログラムを11月に実施し、60人が自主的に参加したことは素晴らしい。</p> <p>・大学教員招聘も困難な時期によくできたと感じる。</p> <p>【第3回(3/15書面開催)】</p> <p>「令和2年度学校評価」(案)について</p> <p>・毎年確実に学校の取組みが進み、成果を上げてきたことが、生徒や保護者の満足度が高く、入学者選抜における高倍率に繋がっている。生徒の20年後、30年度を見据えて新しい目標を設定し、さらなるステップアップを図っていただきたい。</p> <p>・学校教育自己診断で「人権教育を学校全体で取り組んでいる」の大幅な増加には好感が持てる。</p> <p>・姉妹校等とのWEB交流などICT教育の推進に係る肯定的回答率が高いことが評価できる。</p> <p>・家庭学習習慣の定着率の向上は喜ばしい。</p> <p>「令和3年度学校経営計画」(案)について</p> <p>・学校教育自己診断の85%以上の高い数値が出ている項目は「維持する」で良いと思われる。</p> <p>・授業内容の充実を組織的にされることは良い。</p> <p>・「総合的な探究の時間」でSDGsに繋がる探究学習は重要で、すべての学習がSDGsに繋がるものと認識し各教科で課題をとらえて進めてほしい。</p> <p>・それぞれの項目の中身を分析することが重要。例えば単に「家庭学習習慣がついた」の指標ではなく、時間・内容・方法を分析し、どのような学習サポートを行うかを考えてほしい。</p> <p>・時間厳守やクリーン活動など社会性を育成する教</p>

<p>員会と分掌・学年・教科との相互連携に課題があると考え。機能的な学校運営体制の構築に努める。</p> <p>・生徒は教員をよく見ているもので、今年度新たに「生徒が教職員集団をどう見ているか」を知る質問を加え、客観的な指標の一つにした。昨年度との比較はできないが高い値が得られた。今後の指標の一つにしたい。</p> <p>参考 教職員の「学年・分掌・教科等が互いに連携」48%(+1)、今年度新設の生徒の「先生はお互いに協力している」84%</p> <p>・教職員の「校内研修は教育実践に役立つ」は74%(+19)と飛躍的に上昇した。オンライン授業や観点別評価の試行実施に係る研修、外部講師による人権研修等、本校が必要とする有意義な内容を実施することができた。</p>	<p>育を推進してほしい。</p> <p>・学校運営協議会での意見を反映されていると感じる。生徒個々の意欲の向上をねらいにあらゆる「仕掛け」の実践的な計画が立てられている。</p> <p>・美化活動や防災避難訓練など地域との連携・協働を深めてほしい。</p> <p>・教職員の十分な健康管理をお願いする。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援	(1) 学力の向上 ア 授業力向上の取組	(1) ア・授業の目標を明確にし、生徒が考えたり、意見を発表・交換する場面を取り入れる等の工夫をする ・互見授業や公開授業を活発に行い、授業について話し合う機会を増やす	(1) ア・授業アンケート「授業計画」3.35以上を維持(R1:3.38)「知識・技能が身についた」3.2以上を維持(R1:3.26) ・授業力向上の全体研修2回実施	(1) ア・「考える」学びに重心をおいた授業実践に努めた。「授業計画」3.43「知識・技能が身についた」3.31といずれも0.05ポイント上昇() ・観点別評価を取り入れた授業開発に係る研修を2回実施し、次年度の試行実施計画を策定した。()
	イ 1・2年次での基礎学力の定着	イ・1・2年次各2回学力生活実態調査(英数国)を実施し、分析会を実施し、教科担当者で共有し、基礎学力の定着のための働きかけを行う	イ・分析会2回実施と、教科での取組体制の定着	イ・分析会2回実施、学年進路中心に取り組む体制は定着。生徒の学習意欲の向上に繋がり、校内模試受験希望者が大幅に増えた。(2年次2月83%)()
	ウ 自学自習の習慣の確立	ウ・教科と学年が連携し、自学自習の習慣確立に向けて取組を行う。 基礎学力調査等の結果を英数国の教科担当者で分析し、定着率の低い分野を学習させる等の取組を行う。	ウ・学校教育自己診断(以下自己診断・肯定率)生徒「自学自習の習慣が身についた」50%(R1:42%)	ウ・学校教育自己診断肯定率【以下自己診断()内R1】生徒56%(42%)、保護者52%(45%)と、統計開始以来初めて50%を超える大幅増。今年度は、臨時休業中の学習課題配送やオンライン学習をマメに行ったことも影響していると評価する。()
	(2) キャリア形成の段階的支援 ア 効果的な進路指導の実践	(2) ア・三年間の進路指導計画を共通理解のもと、効果的に実践する ・ポートフォリオを活用し、基礎学力調査や模擬試験の振り返りを定着させる	(2) ア・効果的な実践や効果的な振り返り方法の工夫等の研修を行う。1回	(2) ア・新学習指導要領の実施や大学入試改革を鑑み、進路実現を果たすため、効果的な実践や振り返り方の工夫について各学年で2回研修した。()
	イ 進路探究の推進	イ・新たな探究のプログラムを円滑に実施し、進路指導部と連携を図り、進路意識の醸成に活かす ・SDGsをハブとし、探究と各教科の授業や各分掌の取組みとつなげる。	イ・新たなプログラムの円滑な実施 生徒発表の機会2回 ・自己診断・肯定率生徒「進路意識の確立」80%前後(R1:77%) ・SDGsの各教科・分掌の取組みを報告する機会を設定し、共有する。1回	イ・進路探究プログラム企画担当のビジョンPTと学年とが相当な労力をかけ、協働して進める事ができた。生徒の発表4回達成。() ・自己診断「進路や生き方について考える機会」85%コロナ禍にもかかわらず進路指導は従前にもまして充実できた。「進路意識の確立」75%(77%)() ・SDGsに繋がる学習が、真に当事者の思いに共感し進路選択に繋がる深い取組みになっているか検証し、次年度に向けて修正することができた。今年度はコロナ禍で訪問などの取組みができなかったことも考慮して評価し次年度に繋げる。(-)
	(3) 社会性の育成と学習環境の整備 ア TPOに応じた行動	(3) ア・遅刻防止の徹底 ・挨拶の励行	(3) ア・年5回以上遅刻者20%台維持(R1:22%) ・挨拶運動実施2回	(3) ア・年5回以上遅刻者17.8%(21.5%)() 休業期間があったので「減った」とは言えない。 ・挨拶運動2回実施()
	イ 自他の人権を尊重する態度を養う	イ・様々な人権課題に触れ、正確な知識を身につけ、当事者意識を持って物事を考えさせる	イ・人権について考える機会 各学年3回 高校3年間で様々な分野をバランスよく学ばせる。	イ・今年度は人権教育の充実を重点課題に掲げ、数多くの考え学ぶ機会を設けた。各学年3回以上() 参考 自己診断教職員「人権尊重に係る課題や指導法を学校全体で取り組む」93%(76%)と大幅増。
ウ 校内美化の推進	ウ・保健委員会の活性化	ウ・美化点検各学期1回 ・クリーンアップキャンペーンの実施	ウ・美化点検2、3学期に各1回。コロナ禍で1学期は中止。教職員で清掃・消毒を徹底した。() ・今年度も生徒会執行部とクラブ員が中心となって4回実施できた。また、正門前花壇の花苗植付けを生徒会とPTAの協働で行い、生徒会・教職員が管理し、美しい状態が維持されている。()	

府立花園高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 多文化共生を推進する人材の育成</p>	<p>(1) 多文化理解教育の一層の充実 ア 多文化共生について深く考える</p> <p>(2) 英語教育の充実 ア 四技能を総合的に伸ばす指導方法の研究</p> <p>イ 英語外部検定</p>	<p>(1) ア・多文化共生について体験やフィールドワーク等を通して理解を深める</p> <p>(2) ア・新学習指導要領実施に向けた授業内容の研究</p> <p>・国際文化科1期生の英語授業(現学習指導要領)計画の策定</p> <p>イ・GTECの効果的な指導方法の共有とそれによる英語力の向上を図る</p>	<p>(1) ア・国際交流や多文化共生について体験したり、考える機会 5回以上 留学生との交流等</p> <p>(2) ア・英語科教員による新たな CanDo リストの作成</p> <p>・計画の完成</p> <p>イ・GTEC 4技能 CEFR-J A2.2 以上 25% 台 (R1:25.1%)</p> <p>・英語科内で指導方法の共有</p>	<p>(1) ア・国際交流の機会 10回(Web)。両校を含め、スウェーデン、アメリカとの Web 交流を実施することができた。また、事前に文通やビデオレターの交換等コロナ禍でもできることを行った。()</p> <p>(2) ア・国際文化科の改編に向け、英語教育のさらなる充実と発展を実現する CanDo リストを作成し、国際文化科1期生の授業計画を策定した。()</p> <p>イ・コロナ禍の中、オンラインを活用したスピーキングコンテストを実施するなど、生徒の学習意欲向上の機会を確保し、4技能を総合的に伸ばす指導を実践。4名の英検準1級合格者を輩出した。12月に1、2年生全員を対象にアセスメント版で4技能受検。コロナ禍で4月からの指導が十分にできなかった事も影響し A2.2 以上 16.1%であった。(-)</p> <p>・次年度は2年生全員を対象に検定版に変更予定。英語科内での指導方法を共有した。()</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成</p>	<p>(1) 自主的な活動の活性化 ア 良好な人間関係の構築</p> <p>(2) 生徒会活動の充実 イ 社会との関わりの中で成長</p>	<p>(1) ア・クラスや学年を超えて交流できる機会の設定</p> <p>(2) イ・様々な分野で、学校外での活動の機会を設け、積極的に参加させる</p>	<p>(1) ア・交流の機会 3回 体育の部団交流、探究の発表会等(学年・クラスを超えて)</p> <p>(2) イ・参加生徒数 100名以上 花園進路探究プログラム、ボランティア活動等</p>	<p>(1) ア・交流の機会 4~5回(新入生歓迎会、花高祭体育の部・文化の部、花リンピック、探究発表会) コロナ禍の中、感染防止に十分気をつけながら内容を精選して実施できた。()</p> <p>参考 自己診断「行事へ積極的に参加」83%(83%)</p> <p>(2) イ・学校外活動参加生徒 100名(花園探究プログラム、ダンス部地域での公演、吹奏学部福祉施設公演) コロナ禍の中、可能な限りできることを行い、生徒の体験的教育活動の機会を設け、自己実現と自己肯定感の向上に繋がった。()</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力向上 ア 学校運営参画意識の向上</p> <p>ウ 働き方改革</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 国際文化科への再編への対応</p>	<p>ア・首席を初めとする運営委員が、課題の共有、建設的な議論の活性化に努め、コミュニケーションを十分にとり、組織力を高める</p> <p>・PTやWGに多くの教員が関わり、その中で仕事の進め方を学んだり、協働して組織として動く経験の場を多くつくる</p> <p>ウ・一斉退庁日の徹底や部活動活動指針の遵守による時間外勤務時間の縮減</p> <p>ア・国際文化科の特徴や魅力を効果的に広報するための工夫</p>	<p>(1) ア・自己診断・肯定率教職員「組織の連携」50%台(R1:47%)「組織が有効に機能」60%台(R1:59%)</p> <p>・PTやWG等への教職経験 20年前後までの教員の参加 10名以上</p> <p>ウ・繁忙期(4月~6月)の時間外勤務平均時間数を45時間未満にする(R1:46.0)</p> <p>ア・広報用のパンフレット等の刷新</p> <p>・広報用パワーポイントやポスター等の刷新</p>	<p>(1) ア・自己診断教職員「組織の連携」48%(47%)、「組織が有効に機能」67%(59%) オンラインを活用した教育や業務の効率化を図るため、年度新たに「情報化推進部」を設置。組織的な分業による円滑な学校運営体制を構築する。()</p> <p>・PTやWG等への参画 12名。経験年数等に関係なく、自由に意見交換できる職場の雰囲気づくりを進める。()</p> <p>ウ・4~6月の時間外勤務平均時間 22.5時間(45時間) コロナ禍による臨時休業中でテレワークもあったため昨年度と比較できない。今年度1月から統計の取方が変更された事を踏まえ、次年度新たに目標を設定する。(-)</p> <p>(2) ア・広報用パンフレット、ポスター、国際教養科(国際文化科)レターニュースを予定どおり刷新()</p> <p>・広報用パワーポイントを9月に刷新、生徒会による学校案内ビデオや行事及び部活動紹介ビデオを作成し、それぞれホームページ上に公開。本校を志望する中学生が昨年度より大幅に増加した。()</p>